

阿武隈河畔でボランティアの除染作業に遭遇。

除染廃土置きから福島市街地へ。

(レポート / 菊池京子・写真 / 小松崎栄

一)

飯舘村からの避難者が暮らしておられる伊達市の伊達東仮設住宅集会所にミシン3台を届けた帰路、福島市内ではボランティアさんたちによる除染活動に出会いました。市街地を走った様子などもまとめました。

〈ヘルシーランド福島の前で県道で除染作業中〉

伊達東仮設を辞した後、車で20分ほどの福島市に向かいました。

目的地は市街の東側を南から北に流れる阿武隈川東岸の、福島ヘルシーランドのあるあたりの県道309号線です。

事前に福島市在住のジャーナリスト・藍原寛子さんに、除染で取り除いた土の一時仮置き場として教わっていた場所でしたが、川側の歩道(道路に一定間隔でコンクリートの仕切りが突出させてある)では、大勢の人が雨装備のようなパーカーやオーバースボンといった仕度に帽子とマスク姿で前かがみになって作業をしています。除染作業だということがひと目で知れます。小さなアルミの大八車が竹箒のようなものなど掃除道具やごみ袋などを乗せて作業の人々のところに向かって行きました。

とりあえず、ヘルシーランドの駐車場に入って行くと、駐車中のバンの後ろドアを跳ね上げて車内を覗き道具などを点検している男性に、スーツ姿の若い男性が話しかけてテレビカメラが背後から撮影しています。

山吹色の雨具上下のようないで立ちで取材を受けていた大柄な男性は、福島市内にある常円寺 <http://www.oharu-zizo.jp/>のご住職・阿部光裕さんで、除染作業は「福島復興プロジェクト・花に願いを」 <http://hananinegaiwo.jp/vigor/index.htm> がボランティアを集めて行っているとのことでした。



この日の参加者は約40人で、プロジェクトのホームページには、線量測定と除染活動の予定が掲示されてボランティアを随時募集し活動が続いているようです。取材は地元の福島テレビでした。

日曜日の午後にボランティアで除染活動...この光景が福島市内では日常のことです。

ほんの短い間ふた言、三言話ただけですが、阿部住職が手にしている放射線量測定器は長い柄の先に付いていて、路肩の草と土埃の溜まったあたりに近づけるとデジタル表示がツツツツと変わって、 $0.78\mu\text{Sv}/\text{時}$ を指しました。しかし、コンクリートの縁石の反対側に置くと、すぐに $0.6\mu\text{Sv}/\text{時}$ 台に。「まったく一定ということはないんですよ」と説明してくれました。お邪魔しても申し訳ないので、じき失礼し、除染作業が行われている少し先の、除染土仮置き場に場所を移しました。



土は1階の天井くらいの高さに台形に積み上げられブルーシートが掛けられていましたが、シートの境目など所によってはめくれあがっていて、その下に土がパンパンに入っているフレコンバッグ（ブルーシートなどに近い素材などで厚手のもの、大きさは $100\sim 140\text{cm}$ 角ぐらいで吊り紐が付いていて、内容重量だいたい 1t が目安のものが多いので、トンバッグと呼ぶ人もいます。津波や地震被災地では瓦礫やゴミ、廃材などの撤去時に多用している）が積み重なっている様子がみえました。

敷地の入り口は、歩道との境界に普通の工事現場程度の仕切りしかなく、立入禁止のテープも張ってありますが入ろうと思えば誰でも入れる簡単過ぎる仕切りです。その境目に、線量計を地上 5cm ぐらいに保ってかざしてみました。

この日は震えるほど寒い日で、阿武隈川の川面を舐めるように浚うように吹き抜けて来る風は冷たく、3分ほどで手が凍えます。確実に上がり続けた表示は、 $87\mu\text{Sv}/\text{時}$ 。引っ込めようとしたその時、急に強い風が吹いてきて路肩の枯れ草を揺らし周囲の土埃を舞い上げました。...と、さっきの阿部住職の時と同じように、あるいはそれより早く、ツツツツと表示が変わって、あっという間に $1.3\mu\text{Sv}/\text{時}$ を超えました。

測定器を仕舞って車に戻ろうとすると、除染作業の方向からこちらに、中学生男子が歩いてきました。マスクなし、ごくごく普通に歩いています。

この道は阿武隈川沿いを南北に走って国道4号線の抜け道になっているので、朝夕などは結構な交通量があるそうです。福島市街地は川を挟んだ反対側の西側に広がり、こちら東側は住宅街と丘陵地が広がります。健康ランドのすぐ背後の山は野鳥がたくさんいる「野鳥の森」で、本来ならばバードウォッチャーには心躍る野鳥の宝庫、野鳥の園です。

市のホームページによると、この野鳥の森の放射線量は0.93~1.4 μ Sv/時です(2013年12月18日発表)。

前述の東大でのシンポジウムでは福島大学の研究者の1人がこの森の野鳥を観察した結果を「2011年の春は野鳥の数がかなり減った」「羽やくちばしに異常があるものが、観察された」と発表し、録音された鳥のさえずりが流されたことが思い出されました。

<市街地では車内の線量がくるくる変わる>

この日、車の中では、私個人の線量計と光源寺さんの線量計の2台(どちらも家庭用の簡易測定器)を、1台はドア内側のポケットに、1台はダッシュボードの上にそれぞれ置いて、東京を出るときからスイッチは入れっぱなしにしていました。

ヘルシーランド福島や除染土置き場前の道を南下して一路、阿武隈川を渡って西へ向かいました。

右に福島競馬場、すぐそばに福島二中、その向かい側には「東北大学福島第一原子力発電所事故対策本部福島分室」。さらに進んで東北の大動脈といえる国道4号線を超えると左右に福島市役所や福島地裁。左折して南に転じれば福島地方気象台、公会堂、市立図書館、福島県警、福島県庁などなど、県や市の重要施設が並びます。このあたりは古くから市の中心地で官庁街でもあり、多くの学校も混じり建っています。

そう広くはない市街地内をあわただしく走行しましたがその間車内の、40cmぐらいしか離れていない2台の線量計は、場所によってばらばらな数値を示してコロコロと変わっていききました。最高値は0.4 μ Sv/時台、最低値は0.07 μ Sv/時台あたり。事故対策本部福島分室前は私がメモに残した中で一番高く0.38 μ Sv/時でした。

走行しながら拾っていくのですから、参考までの値ではありますが、数値が「動く」ということはそれなりの空間線量の高さがあるわけです。1 mSv/年は時間当たりに直すと0.23 μ Sv/時。この数字を考えないわけにはいきません。

信号で停止している時や、何箇所かで止まって動きを見ていると、2台がまったく違う数字を表示している時もあるべきに同じになるときもありで、まったく一定しません。2台の数値があまりに異なることが再三あったので目を疑い、機械を疑いました。たとえば、同じ車内でも0.21 μ Sv/時-0.33 μ Sv/時、0.18 μ Sv/時-0.23 μ Sv/時などでした。

往路の高速道の車内でも栃木県北部あたりから福島県内に入ると目まぐるしく数値表示が変わって上がっていききました。栃木県内で0.15Sv/時前後だったのが県境を越えてすぐの白河ICを過ぎると転々しながらも0.2 μ Sv/時台を指すようになり、時折0.3 μ Sv/時台にも、でもすぐにまた0.09などと目まぐるしく変わります。福島県内に入ると時折横風で雪が吹き付けて来たりして天気もコロコロ変わりました。

それでも福島市街に入るまでは2台の表示に大きな差はほとんどなかったのです。違って0.01程度しか違いませんでした。

ですから福島市内のこの様子をどう受け止めて理解すればいいのか、何がどうなって

いるのか。数cm、数十cm離れただけで線量が違うことがあるのは常識と、頭では分かって
も心のどこかで『本当なのか?!』と置いてしまいます。『これが現実なのだ』と心の中で言
い聞かせてもシニール過ぎる現実に心が置き去りにされているような気がしてなりま
せませんでした。

(レポート②了)

(2014年1月6日・レポート=菊池京子)